

**取組実績の概要** 【2ページ以内】**【全体概要】**

本構想は、ASEAN 横断型グローバル課題挑戦的教育プログラム (TAG/AIMS プログラム) として、世界協調と地域及び課題横断型アプローチで、国連ミレニアム開発目標 (MDGs) 及びこれを継承する持続可能な開発目標 (SDGs) に関わる課題を軸に教育し、学生の自主性理解を醸成することを最終目標としている。特に、2002 年WSSDや2012年Rio +20 のサミットで合意された基幹的なトピックスである、農業食料・環境・生物多様性・エネルギー・水・貧困などを主体に、AIMS プログラムの 7 教育分野に対応した教育を実施し、本学の教育目標の一つとしている「地球規模課題解決に資する知の創造」の下に、参加する本学派遣学生、パートナー大学からの受入学生に対して様々な教育プログラムを提供している。

この事業の目的は、学生交流だけではなく、教育活動を通じた ASEAN 地域における教育の質の向上と統一への貢献、短期留学のための学生支援制度に関する問題点抽出による将来の更なる学生モビリティ増大への迅速かつ効率的な対応に資するための基盤整備にある。従って、TAG/AIMS プログラムでは、教育システムの異なる多くのパートナー大学を取り込むことで、より普遍的なシステム構築への応用を目指している。

AIMSプログラムでは、学生は母国の奨学金、又は私費で参加することになっているが、パートナー大学を対象とした事前調査では、日本留学のための奨学金を準備できず、学生の私費負担に依存している大学が多く見られた。このような状況下で、限られたパートナー大学との間で多数の学生交流を行った場合、他の優秀な学生にプログラム参加の機会を公平に提供できなくなるだけでなく、補助金終了後の事業継続性を考慮した場合に事業規模を縮小せざるを得なくなる可能性がある。

加えて、本事業では日本よりも地球規模課題が顕在化している ASEAN 諸国に日本人学生を派遣し、異なる生活環境、文化、学修環境に一定期間滞在する機会を提供することで、地球規模課題解決に貢献するために必要な能力を養成することを目的としており、少数の大学と多数の学生交流を行った場合、パートナー大学での派遣学生の集団行動が増え、学生の自主性理解の醸成の点でも目標達成が難しくなる。

このような理由から、TAG/AIMS プログラムでは可能な限り多くのパートナー大学とネットワークを構築し、幅広い学生交流活動を行うことにより、プログラムの継続性と教育効果を高めることとしている。なお、少人数派遣の場合に懸念される危機管理・学生支援体制については、本学海外拠点やパートナー大学との連携による現地サポートに加え、海外安全危機管理サービスへの加入によって、緊急時に対応する万全な体制を整えてある。

**【学生の受入/派遣】**

学生受入に関しては、平成26年度秋学期 (2014. 10～2015. 3) から開始し、補助金期間で7回の学生受入を行った。国別学生受入数に関しては、マレーシア 63 名 (10大学)、インドネシア19 名 (3大学)、タイ30 名 (6大学)、ベトナム 14 名 (2大学)、フィリピン41 名 (4大学) ブルネイ 8名 (1大学) を AIMS パートナー大学から、カンボジア18名 (1大学)、ラオス15名 (1大学)、ミャンマー10 名 (1大学) アメリカ2 名 (1大学) からも学生を受け入れた。

また、ラオス、カンボジア、ミャンマーについては、AIMS プログラムが東南アジア教育大臣機構 (SEAMEO) 全加盟国を参加国に登録することを計画しており、将来の AIMS 参加への試行的な交流として、3 ヶ国の教育省の高等教育担当部局との連携の下、成果及び改善点などについて情報共有を行った。

学生派遣に関しては、平成 26 年度 ASEAN 第二学期 (2014. 12～2015. 5) から開始し、補助金期間で7回の学生派遣を行った。国別派遣学生数に関しては、マレーシア 51名 (10大学)、インドネシア 22 名 (3大学)、タイ 28 名 (6大学)、ベトナム 2名 (2大学)、フィリピン 14 名 (4大学) ブルネイ 名 (1大学) となった。派遣期間中には、電子メール・SKYPE などを活用して定期的に学生の学修状況を把握するとともに、本学海外事務所のあるクアラルンプールに学生を招集しフォローアップミーティングを開催することで学生間ネットワークの構築も行った。

**【多様な学生交流プログラム】**

このほか、ASEANへの一学期間留学を動機づけるため、約2週間のパイロットプログラムをタイ・フィリピン・インドネシア・マレーシアと双方向で実施した (平成25年度：受入46名/派遣86名、平成26年度：受入

41名/派遣50名)。また、パートナー大学及び東南アジア教育大臣機構（SEAMEO）、東南アジア教育大臣機構・高等教育開発センター（SEAMEO-RIHED）との連携強化のため、共同プログラム委員会、幹事校連絡会、シンポジウムを開催し、学生交流活動に係る教育業務、学生支援体制の強化及びプログラム研究評価（国連大学含む外部評価委員等からの助言を基に実施）の報告を行った。

さらに、AIMSプログラムのパートナー大学からは大学院レベルへと交流の幅を拡大したい大学が多く、研究協力、若手研究者・教員養成の観点から重要であることから、AIMSプログラムの連携を活用したTAG/TSSP（TAG-Tsukuba Short Study Program）プログラムを開始した。TAG-TSSPプログラムでは、AIMSパートナー大学の大学院生または学部卒研究生を90日間受け入れ、本学教員の指導の下に論文研究に資する研究手法の習得、論文研究に関するアドバイス、さらには論文研究の一部を日本滞在中に行う機会を提供した。また、受入だけではなく本学の同レベルの学生でAIMSパートナー大学での論文研究を希望する学生にも参加する機会を提供し、研究分野での双方向の交流を実施した。参加した学生にはTAG-AIMSプログラムの参加学生も多く含まれ、TAG-AIMSプログラムで学部時代に1学期間、科目履修を行い授業で紹介された本学またはパートナー大学における先端研究に興味を持ちTAG-TSSPプログラムで論文研究を通して専門性を深めるために留学する学生も多いた。

また、平成26年度「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」の指定を受けTAG-MEXTプログラムを開始した。これは、AIMSプログラム及びスーパーグローバルハイスクール事業で連携のある東南アジア協定大学・高校から本学における学士課程を通してグローバル人材育成を行う事業で、カリキュラムの授業はすべて英語で提供されるが、必修科目の多くはTAG-AIMSプログラムの学生と協働学修する形とした。平成26年度から3年間、年間10名以上の学生を受け入れ、東南アジアへの留学を準備している日本人学生とのディスカッションや地球規模課題に関する問題意識の共有を通して本学における国際教育を推進した。さらに、AIMSプログラムの連携が高等学校、学士、大学院レベルへと拡大され協定大学間の連携を中心とした大きな協力体制が構築された。

#### 【日本における採択幹事校としての活動】

本学は日本のAIMSパートナー大学11校の幹事校として毎年開催されるレビュー会議前の採択校連絡会を主催、運営し各大学からのプログラム改善に向けた意見やグッドプラクティスを共有することでレビュー会議における情報交換に貢献した。さらに、日本がレビュー会議のホストとなった2015年では会場が筑波となり会議の運営を大きく支援した。

#### 【SEAMEOとの連携】

本学はSEAMEOの国内唯一のアフィリエイトメンバーとして活動を支援しており、2013～2018年に毎年SEAMEO-TSUKUBAシンポジウムを開催している。シンポジウムにはSEAMEO27センターから代表者が参集し設定されたトピックに関して、国内および東南アジアにおけるグッドプラクティス紹介、エキスパートによる基調講演および将来に向けた協力体制、改善点、リソースの共有などに関してコンカレントセッションで議論が行われ、各セッションの内容が口頭発表により情報共有された。

#### 【本事業における交流学生数の計画と実績】

	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
計画※	0人	0人	25人	25人	28人	28人	29人	28人	30人	28人	112人	109人
実績	0人	0人	24人	28人	28人	40人	34人	47人	35人	59人	121人	174人

※AIMSリスト掲載大学の変更に伴う計画の変更がある場合は、変更後の交流学生数を記載している。

## 特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ以内】

AIMSプログラムでは、パートナー大学の拡大により、パートナー大学の代表者が会するレビュー会議の規模が年々拡大しており、2014年まで年2回であったレビュー会議を年1回に変更されている。さらに、レビュー会議でAIMSプログラムに係る新たな提案や変更事項について、審議の議決を得ることが困難となってきたことから、2016年のレビュー会議（クアラルンプール）で、レビュー会議とは別に各参加国2名の代表者からなるステアリングコミッティー会議を組織し、新提案や変更事項などについては、ステアリングコミッティー会議で審議・決議した後レビュー会議で承認をとることが決定された。

筑波大学は、2015年のレビュー会議の会場として選定され、文部科学省との協力の下、会議運営及び議事進行に大きく貢献した。また、ステアリングコミッティー会議への参加は各参加国2名のうち1名は政府代表、1名は大学代表とされ、筑波大学は大学代表者として第1回（バンコク2016年）、第2回（東京2017年）、第3回（ソウル2018年）のステアリングコミッティー会議に出席し、日本におけるAIMSプログラムの進捗状況を踏まえた上で、新提案や変更事項に関する協議に参加した。特に、大学の世界展開力強化事業としての補助金終了に伴い各大学がプログラム自走化の準備を進める時点で、レビューミーティングにおいて各大学の代表者から準備状況、特に学生支援体制などについての情報を共有し、ステアリングコミッティー会議において各国代表に日本のパートナー大学の状況を共有することで、日本のパートナー大学のプログラム自走化のスムーズな進行に貢献した。



AIMSレビュー会議（2015 東京）



第1回ステアリングコミッティー会議（2016 バンコク）

AIMSプログラムでは、より多くの学生にプログラムの効果を波及させるため、プログラムを通して構築されたパートナー大学間でのネットワークを活用したEラーニングコンテンツの作成に向けた活動を実施している。経済的困難な状況にある学生、就学にあたって特別な支援が必要な学生、就学時に取得しなければいけない免許（教員、医師など）によるカリキュラム上に制約がある学生など、様々な理由で実際に海外留学に参加できない学生に対する国際性を涵養するため、パートナー大学による講義を所属大学で受講できるようにするためのコンテンツ作成のためのワークショップが2回開催され（2017年、2018年バンコク）、日本のAIMSパートナー大学で唯一ワークショップに参加し、観光・ホスピタリティ分野におけるパートナー大学による共同科目を作成した。

Eラーニングコンテンツ開発会議  
(2018 バンコク)第2回AIMS評価研究チーム会議  
(2017 ソウル)

AIMSプログラムでは、参加学生からのフィードバックを得るため、これまでにAIMSでの海外留学に参加した学生に対して大規模な調査を行いその結果をプログラム改善に役立てる試みを行っている。大規模調査の事務局は韓国的高等教育政策研究所（HEPRI, Higher Education Policy Research Institute）を中心とした委員会が編成されているが、研究専門委員として各参加国から代表者が参加している。筑波大学は日本からの代表者として研究専門委員会に参加し、調査における質問内容、結果の共有と公表についてのプロセス及びプログラム改善に向けた今後の活用法などについて協議に参加した。